

# 随想

## 淑徳と私

愛知淑徳中学校家庭科教諭 鈴木洋子



淑徳の家庭科の教師として、バドミントン部の顧問として、今年

度で40年を迎えようとしています。淑徳の家庭科の取り組みは中学では伝統工芸の織物(つづれ織り、カード織り)、染色(ろうけつ染め)や布絵本など実習を中心とし、高校では昭和48年から女性史を取り入れ、女性の生き方を考えさせてきました。紆余曲折ありましたが、ほぼ定着してきました。

織物は昭和52年から社会科の先生の発案で布一枚が歴史の中でどれほど苦労して作られてきたか、生産の大変さと創造の喜びを体得してほしいという考えから始めました。そして、ものの大切さや時間の大切さを学んでほしいと思っています(つづれ織りの木杵は学園祭の廃材や木の机や椅子の足を利用したものです)。

染色においても日本の伝統文

化を伝承し、名古屋友禅を取り入れて持ち箸袋やエコバックを、ろうけつ染めには家紋を描いたり、試行錯誤です。また和文文化として浴衣を身につけ、礼作法にも取り組んで6年になります。高校では女性の生き方を学びつつ、自分のライフスタイルを見つけてほしいと思います。

部活のバドミントンでは全国中学生大会やインターハイ、国民体育大会にも出場しましたが、大会出場がすべてではないと思えます。学校教育における部活動ではそれに至るまでの努力によって多くのものを培ってくれることが望みです。核家族が増えて兄弟も少なくなり、昔と異なつて複雑な人間関係も得られず、人とのコミュニケーションのとり方が難しくなつてきました。淑徳も中高一貫教育になりましたが、中高1の年齢の差がありますが、家庭では得られない先輩、後輩のつながりや上級生の姿から技術や精神力を学びつつ友達という財産をつくつてくれたらと思います。

昨年の夏に中高一貫教育の結果を大会を通してみることできました。小学生からの経験者

一人を中心に、団体戦において市で優勝、県で準優勝、東海大会で3位と全国中学生大会には届きませんでした。選手だけの力でなく、中1から高3までの応援を背にして色々な思いを抱いての堂々とした戦いぶりにはクラブ全員が熱いものを感じました。チームワークを大切にして、チーム一丸となつて得た勝利でした。心身ともに成長してくれたと思います。大会が終わった今だからこそ、礼儀正しく大きな声で挨拶をしたり、感謝の気持ちを持つことが大切であることを生徒達に伝えていきます。淑徳魂に通じる人間形成を目標に、人思いやる気持ちや頑張る力を身につけてほしいものです。

私自身の心情ですが、『知は世の幸せの為に、愛は衆の和を築く為に捧げ、勇は努めて苦しみに耐え、以て我人共に生きることを喜びとせん』私が熊本インターハイで優勝した時に得た言葉です。残り少ない教員生活ですが、教科とスポーツを通して生きる力を少しでも教えていくことができたいと思います。